

# 令和3年度卒業式 式辞

## 海上技術コース(専修)

厳しい寒さは過ぎ去り、少しずつ春めいた暖かな日が訪れてきました。本日このよき日に、令和3年度海技大学校卒業式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、教職員を代表し、一言お祝いの言葉を申し上げます。

海上技術コース(専修)の諸君、卒業おめでとうございます。

諸君が入学した令和2年4月は新型コロナウイルス感染症対策のため、入学式は実施せず、海技大学校に来校する事無く、令和2年4月15日から自宅にて課題学習を行って頂きました。対面授業を開始したのは、令和2年6月15日です。その後、対面授業とリモート授業の組み合わせで授業を継続しました。この様に例年とは異なる特異な状況下で学生生活を送ったこととなります。乗船実習が修了し、海技大学校に帰ってきてからも学生寮で生活しながら、ガイドラインに基づき新型コロナウイルス対策を確実に実行していただきました。いまだ感染者が出ていないのは、諸君が日頃より新型コロナウイルス対策を確実に実行していた証であると思料します。

諸君は海技大学校の2年間で、四級海技士の知識を基礎として、三級海技士に必要な知識、技術を学んできました。入学当初に抱いていた目標、たとえば二級海技士の筆記試験合格、TOEICで高得点取得、あるいは希望している船社から内定を頂くなどは達成できたでしょうか。光陰矢の如し、二年間はあっという間に過ぎ去ったのではないのでしょうか。しかしここで学ぶことは終了ではなく、今から始まります。習うは一

生という諺があります。新しいことを知り、身に着けていくためには、人は、一生を通じ、常に学ばなければならないという意味です。今後、航海士及び機関士として活躍していく上で新しい知識、技術を身に着けるために、新たな勉強が必要となります。一生を通じて学ぶ姿勢を第一としてください。

船の世界は、新しい技術の導入により、大きくその姿を変えてきました。最近では、無人運航船、遠隔操縦船、あるいは水素、アンモニア燃料船等の名称を業界誌などで目にします。近い将来、新しい技術の導入が更に進み無人運航船、遠隔操縦船が世界の海を航海し、推進プラントで使用する燃料は、重油、LNG を経て水素、アンモニア燃料に代わる日も、現実味を帯びてきました。現に日本財団が主導している MEGURI2040 プロジェクトでは、無人運航船の実証実験が成功しています。しかしながら、どんなに技術が発達し、船員を取り巻く環境がいくら変化しようとも、船員のスキルが、船舶運航の核であることは、将来にわたっても変化しないでしょう。

本校を卒業し、航海士及び機関士として、世界に羽ばたいていくことになりますが、常に学ぶ姿勢を忘れないで、真摯に仕事に向き合い、仕事を確実に実施できる船員になっていくことを期待しています。

最後に、卒業生諸君の希望に満ちた船出を祝し、益々の健康と、前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

令和4年3月18日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 前田 潔